

市長と郡上市の未来を語ろう！

～平成30年度 市長と語ろう！ふれあい懇談会～



市では、市民のみなさんから、市政に対するご意見・ご提言を市長が直接お伺いし、市政運営に生かすための広聴事業として「市長と語ろう！ふれあい懇談会」を開催しています。今年度は、市政報告のほか「防災」や「地域ごとのテーマ」に沿って懇談しご意見を伺いました。今回は、美並、明宝、八幡、高鷲会場の意見交換の一部を要約して紹介します。なお、和良、白鳥、大和会場の様子は次号でお知らせします。各懇談会の詳細は、市のホームページ（各地域のページ）に掲載していますので、ご覧ください。

美並会場（10月25日）

●高齢者の交通移動手段確保について

◆現行の巡回バスについて、予約制や行き先を限定するなどして、デマンド型のバス・タクシーにできないか。また、車両サイズは10人乗り程度でよいのではないか。

市長：美並巡回バスは、広域エリアを走行するため便数は少ない状況である。バス車両購入時は乗客の最大数を想定していたが、実態に即した小型車両にし、台数を増やすことは検討すべき課題である。その際には、運転手もその台数分必要となり、経費や人材確保に課題がある。

◆巡回バスについては「小さな拠点」づくりと並行して考えていく必要がある。美並町内である程度、消費行動ができるように、NPO法人などが美並振興事務所の敷地内で野菜などを販売できないか。

市長：美並振興事務所の空いた場所を利用し、野菜や日用品などの販売を行っていただけの方があれば可能だと思われる。町内で、ある程度の買い物はできるような取り組みは必要だと考える。

◆NPO法人を立ち上げ、利用

者は限られるが、福祉有償運送でのバス運行を検討してはいいか。

市長：自家用有償旅客運送のなかで福祉有償運送であれば、巡回バスとの併用運行も可能なため、道は開けると思われる。

●防災について

◆名古屋市が作成している潮位変化による浸水エリア予想マップのような、基準地点における河川の水位が一定のラインを超える場合、どの地域が危険になるか判断可能なマップはないか。

市長：土木事務所に百年に一度の大雨を想定し浸水域を計算したマップ等があるが、基準地点の水位に連動した浸水域を表すものではない。



明宝会場（11月12日）

●空き家対策について

◆明宝では、空き家の紹介や売買などは地域の人と直接行うこ

とになり、契約方法も口約束の場合がある。売り主と買い主を仲介できる専門知識を持った組織が必要ではないか。

市長：空き家対策について、空き家予備群の把握や売買などの仲介は必要であるが、家の売買等を仲介するためには、宅地建物取引士の資格が必要である。そのような法律制度にも対応していかなければ難しいと考える。

◆市外からの移住者に限らず、Uターンや就職などを機に実家をはなれて市内で引っ越しする若者への費用補助などがあれば定住につながると思われる。

市長：若い人への支援については、Uターンや3世帯同居などに対する支援策がある。すでに定住し市民となっている人への支援拡充については、公平・公正性を踏まえ検討したい。

◆下呂市などでは、空き家と小規模な農地を一緒に取得できる制度があるそうだが、郡上市には同じような制度はあるか。

市長：農地の所有権取得は、農業経営維持のため、面積等の基準が設けられている。しかし、小規模農業を営みながら定住できる施策について市の農業委員会でも協議いただくなど検討したい。

●防災について

◆地域で話し合った際に、高齢者や足の不自由な人の避難行動について支援が不十分だったのではないかと意見があった。

市長：要支援者の避難行動については、市で名簿を作成し自治会長、消防団、民生委員児童委員などと情報共有しているが、さらに近所の人などに避難を支援していただける体制づくりを検討する。



八幡会場（11月16日）

●持続可能な地域づくりについて

◆「郡上おどり皆勤賞」という企画を立ち上げ、9年目を迎えた。認知度も上がり市内外から多数の参加者がある。一方で、運営面に課題があるため、今後継続していけるよう助言をいただきたい。

市長：「郡上おどり皆勤賞」は、踊りに親しむうえで効果があ

る。しかし、運営については、

全日程を一人で行うことは不可能であり、サポーター等と協力することが必要と考える。

教育長：サポーターとして中学生が協力することは可能であると考ええる。

◆川合東部地域づくり協議会では「山村活性化支援交付金事業」を活用し様々な活動を行ったが、今後、補助金が終了すると事業が縮小する。市には、リーダーシップを発揮していただき、専門的アドバイスをお願いしたい。

市長：協議会の取り組みには一定の成果が表れている。また、3年間毎年500万円ほどの補助金が支出されており、自走に向かう時期だと考える。市から専門的アドバイスは継続して行うが、リーダーシップをとる団体になっていただきたい。

◆地場産業の後継者育成も地域づくりには重要である。そこで、利用されていない施設でスクリーン印刷・食品サンプル等の職人養成所ができないか。卒業生が地元で起業や就職をすれば地域の活性化にもつながる。

市長：郡上の様々な技術を継承・伝承していくことは大切なことだと考える。ものづくりの技術を学ぶ場として、市内の空

き家を活用したり、産業プラザで夜間に講座を行うなどとしてはどうか。

●防災について

◆7月に八幡町小那比では、経験したことのない豪雨に見舞われ、各所で床上浸水など甚大な被害が発生した。八幡町内の地区会では災害時避難マニュアルを作成している地区がある。そういった体制づくりを市で積極的に取り組んでいただきたい。

市長：7月豪雨では、八幡町小那比や和良町で記録的な大雨となった。自主防災会による避難マニュアルの作成については、八幡町内でおよそ半分の地区が取り組んでおり、小那比地区についても市の総務課などと協議し、避難マニュアルを作成していただきたい。



高鷲会場（11月20日）

●定住化対策について

◆観光業や農業就労者向けの住宅が少ないため、団体を作り、空き家の別荘を購入または借り受けて提供できないか。また、

このような取り組みに郡上市の移住対策補助金が活用できないか。就業者の移住の受け入れは、定住にもつながると思われる。

市長：定住化対策では、住居の確保が問題となる。市の定住化支援策の要件に合致するものは対応できると考える。

◆高齢化や商店の減少など高鷲の現状を踏まえて、様々なハブ機能を備え、商店を集約した道の駅建設を再検討している。市長は具体的な案をお持ちか。

市長：「高鷲地域協議会」で協議されていることは承知しており、生活拠点の役割を持つ道の駅が必要だという考えも理解できる。道の駅建設は、どこにどのように建設するか、誰が経営していくか検討事項も多い。なお、東海北陸自動車道ひるがのSA（上り）が道の駅としての一定の役割を果たしている。

◆高鷲福祉交流センターは、耐用年数が残り5年と聞いた。この施設は、多くの人が利用し、赤ちゃんからお年寄り、障がい者までごちゃまぜの交流ができている。建物は平屋建てで、大掛かりな工事も必要なく耐用年数が延長できると考えられるため、今後とも活用していきたい。

市長：この施設で行っているごちゃまぜの交流を今後も続けて

いきたい気持ちは理解できる。施設の改修による費用対効果や地域内の他の公共施設で同様の機能が果たせないか検討したい。

●防災について

◆7月豪雨の際など、振興事務所職員には、避難所の対応などよくしていただき、大変助かった。住民がこのような時に一番頼りにするのは振興事務所である。災害時に、素早い対応を行っていたためにも、地元の職員を配置していただきたい。

市長：災害時には、地域に土地勘のある職員が対応することが非常に大切だと思われる。ただし、災害時の体制では、本庁へ配属される職員も一定数必要となる。旧町村単位で他の町村出身の職員が配属されることもあるので、地域事情をよく理解し素早く対応できるよう指導していきたい。

